

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援サービスゆれる		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月1日	～	令和8年 2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年 3月1日	～	令和8年 2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	室外での活動が豊富	室内での活動、室外での活動から様々な学びを得るように意識している  外での活動では、動物とのふれあいを中心にトランポリンなど体を動かす活動。室内では読書、映画鑑賞など、歴史や芸術を学べる取り組みをおこなっている	活動が単純になり飽きないように、定期的なミーティングの場を設け、新たな学習が生まれる活動を話しあっている
2	動物とのふれあいの中で、人との関係では生まれない学び、成長があり、様々な命との関わりを持つことにより多様な感性が生まれる環境	動物たちの餌やり、散歩、小屋の掃除など、命に関わる活動の中でコミュニケーションの練習、体を動かす楽しさを感じられる経験などを自主的な行動で得るように、利用者中心で活動できるように意識している	利用者が動物との触れ合いの中で、事故が起きないように、動物たちとの関係性を築いている。 ペットではなく、学びが生まれる関係性になるように職員の動物との関わり方も心掛けている
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレなどの設備環境の改善	様々な利用者が安全に使いやすいように利用できるトイレの改善。 トイレのスペースの拡張。バリアフリーを意識した設備	工事など業者との相談。トイレに関しては去年の改善点にも上がったが、改善につながることはできず。しかし、入口の扉の改修、床、壁の工事など少しずつだが、利用者が活動しやすい空間になってきている
2			
3			